

【樹木の部屋】

ニオイシュロラン(キジカクシ科センネンボク属 *Cordyline australis*)

和名：ニオイシュロラン(匂棕櫚蘭)

別名：ドラセナ

英名：Cabbage tree, Cabbage palm

キジカクシ目 常緑・小高木

原産地：ニュージーランド

花言葉：真実

花の色：



← 写真-1 ニオイシュロランの樹姿

撮影日：2016年06月01日

撮影場所：モン・サン・ミッシェル
(フランス)にて

撮影者：M さん



→ 写真-2 ニオイシュロランの花序

撮影日：2016年06月01日

撮影場所：モン・サン・ミッシェル
(フランス)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ニオイシュロランの花序

撮影日：2016年06月01日

撮影場所：モン・サン・ミッシェル(フランス)にて
撮影者：M さん

モン・サン・ミッシェルを訪れた際、対岸で宿泊したホテル

ル・ド・ロワのエントランスに植栽されていました。普段、よく見かける樹ですが、花が珍しくて・・・と言っても、日本でも花は良く目にしますが、白と少し赤みのかかった花が並植されていたので・・・。

本来センネンボク属の葉は緑色ですが、アトロプルプレア (*Cordyline australis* ‘Atropurpurea’) がつくと、葉裏が赤紫のものを指すそうです。

「ニオイシュロラン」は、花に芳香があり、「シュロ」のように茎の先端から放射状に葉を出すところから名付けられたそうですが、かなりきつい匂いだそうです。少し離れて、風に乗った香りはやさしくいい薫りで、つる性の「ハゴロモジャスミン」の香りに似ているそうです。残念ですが、気付きませんでした。

熱帯性の木で、明治時代の初期に日本に入ってきたそうで、江の島にはたくさん見られるそうです。

<ちょっと一言>

*園芸品店では「ニオイシュロラン」が「ドラセナ」の名で流通しているそうですが、この2品種は、異なるそうです。

同じキジカクシ科ですが、

- ・ドラセナ：ドラセナ属、
- ・ニオイシュロラン：センネンボク属